

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム  
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」  
による派遣研究者研究報告書

平成 26 年 5 月 27 日	
所属部局・職	霊長類研究所、PWS 履修生 1 年
氏名	戸田和弥

<b>1. 派遣国・場所</b> (○○国、○○地域)
宮崎県、幸島
<b>2. 研究課題名</b> (○○の調査、および○○での実験)
幸島実習、離れオスと主群オスの行動比較
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 5 月 10 日 ~ 平成 26 年 5 月 17 日 (8 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
京都大学野生動物研究センター幸島観察所
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
幸島実習では、各自がそれぞれの研究テーマを見つけ、試行錯誤しながら研究を行った。また、データを分析するための R での統計処理を、実習を通して学ぶことができた。あいにくの天気となり、実際に島で観察できたのは 2 日間だけであったが、とても貴重な時間であった。
一般的には、ニホンザルは、血縁関係を持つメスが群れに残り、オスは群れを移出し離れオスとなり、やがてほかの群れに移入する社会を持つ(Nishida, 1966)。
片方の性が出自集団を移出することで、近親交配を回避していると考えられている、(Itani, 1972)、またオスが移籍することでは、より多くのメスと交尾し、繁殖成功度を高めているのかもしれない。(Sprague 1992)
しかしながら、出自集団から移出して、他集団に移籍するまでの、離れオスの期間の存在は、どのような役割を果たしているのだろうか？
幸島の先行研究には、出自集団から移出し、離れオスになることが、体の大型化に役立ち、繁殖成功度を高めるといふ、新しい視点の研究がなされた (Mori & Watanabe, 2003)。出自集団を移出して、離れオスとなることで、採食効率を増加させ、群れの中では採食資源へのアクセスが弱い劣位家系のオスも、体を大きくすることができるという。
今回の実習では、次のテーマを持って研究を行った。
移出する前のオスと、離れオスを経験したオスでは、群れ内での立ち振る舞いどのように変わるか？上の仮説を証明するためには、少なくとも、離れオスの期間を経験したオスは、移出する前の群れオスよりも、資源へアクセスすることができるだろう。

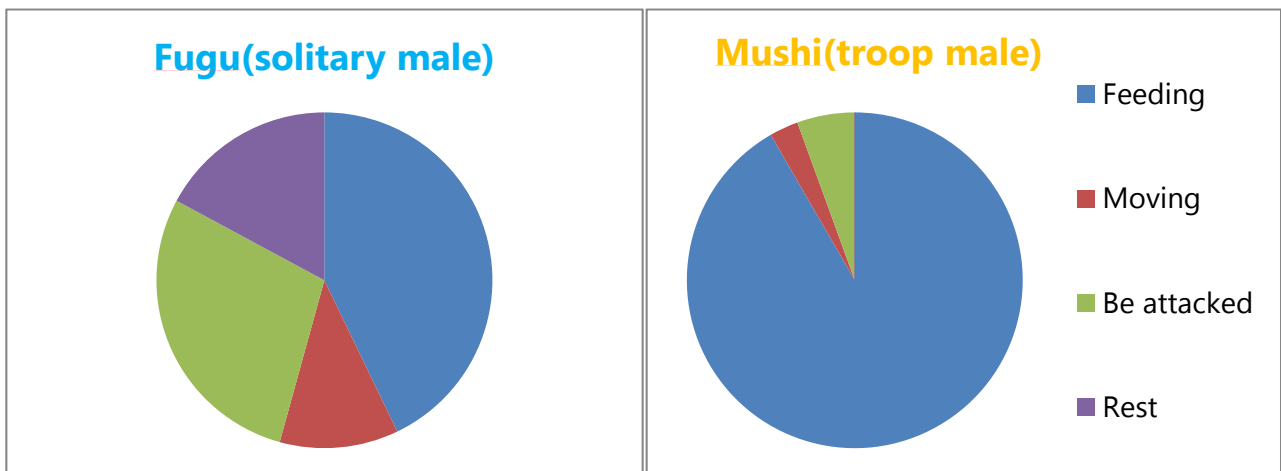
幸島には、主群とマキ群の2つの群れが存在する。砂浜で給餌を行う際は、主群が給餌場に現れる。

観察対象となった離れオス、ムシは最近主群の周辺に現れるようになり、近々主群に移籍するのではないかと予測される、また群れオス、フグは年齢的にも、そろそろ移出すると思われる。ムシとフグは劣位家系のオスで、両者とも近親個体がいらないという点で共通している、このことは、かつてのムシ（離れオス）はフグ（群れオス）と同様の群れ内での立場であったと推測できる（鈴木さん, 2014）

今回の研究では、給餌時間中の、ムシとフグの2個体の Activity Budget を比較した。サンプリング方法は、個体追跡法により1分間ごとの行動(Feeding, Grooming, Rest)を記録した、他個体からの攻撃干渉のみ、全生起サンプリングを行った。おおよその観察時間は、それぞれ給餌を開始してから各個体が、浜辺での採食を完全に終わるまでの、2時間程度である（詳細は別途記載）。

離れオスの期間を経験し、体を大きくしたムシのほうが、群れオスのフグよりも、他個体から攻撃されず、自由に資源へアクセスできる、という仮説を持った。

#### 結果



$X\text{-squared} = 48.06, df = 3, p < 0.001$

この結果から、離れオスの期間を経験した個体のほうが、出自集団から移出する前のオスよりも、群れ内で他個体から攻撃を受ける頻度が少なく、資源へのアクセスが自由であることが分かった。

観察期間が短く、観察対象数が少ないため、結論を出すには至れなかったが、離れオスの期間がオスの繁殖成功度を高めているという可能性を示すことができたかもしれない。

また、研究のほかにも、ウミガメを見ることができたり、半野生の馬を見ることができたりと、なかなかない経験を得ることができた。

#### 日程

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム  
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」  
による派遣研究者研究報告書

5/10 移動日

5/11 幸島到着、研究計画ミーティング

5/12 統計ソフト R の使い方勉強会、野生馬の観察

5/13, 14 幸島での調査

5/15 エクセル、R 等の勉強会、研究結果の集計

5/16 研究発表会

5/17 幸島発 移動日

以上で報告を終わります。

以下に幸島での写真を添付します。



幸島

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム  
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」  
による派遣研究者研究報告書



船で幸島に渡る



餌を待ちわび、出迎えるサル

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム  
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」  
による派遣研究者研究報告書



コドモサル



日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム  
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」  
による派遣研究者研究報告書



幸島の森の中



グルーミング中



リュックの中身が気になるサル

## 6. その他（特記事項など）